

レポート・論文作成講座 第2回

テーマの決め方 情報の選び方

2017年11月9日(木) 16:30~18:00
高等教育開発センター 上岡真紀子

© Makiko Ueoka all rights reserved

本日の目標

1. レポートにおける問いの役割、序論における目標規定文の役割を説明できる
2. 問いを絞り込むために、対象の範囲や方法を限定して、問いのサイズを検討できる
3. レポートや論文で引用するために適切な情報源であるかどうかを評価する際のポイントを説明できるようにする

© Makiko Ueoka all rights reserved

今回扱うパートは

- 序論です



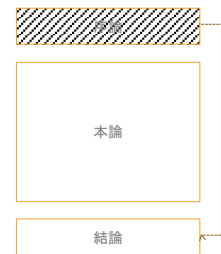
© Makiko Ueoka all rights reserved

序論の役割(確認)

このレポートで何をするのか
(何を書くのか)を説明し、目標を宣言するパート

= 課題の背景、歴史的経緯、現在の状況、前提の説明など + 問いの設定

- このパートで中心となるのは、レポートの目標を規定した文 = 目標規定文



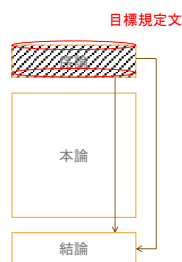
© Makiko Ueoka all rights reserved

目標規定文とは

- レポートのミッションステートメント
そのレポートで何を行うかを述べた文

- このレポートでは、
～の問題点を整理する
～の妥当性を検討する
～を比較し考察する
→ 本論の内容を規定する

- 目標規定文は、序論の冒頭、または序論の最後に書く



© Makiko Ueoka all rights reserved

問いをたてる

■ 問い = 目標規定

小論文で(知らずに)使ったテクニック...

「では、なぜ女性の社会進出は進まないのだろうか」
→ その後に書く内容を規定する

■ 問い(になっているかどうか)を確認するには、

- 疑問文で書いてみる

■ 良い問いとは？

- (その授業の課題として、学術的に)論じるに足る
- 答えを提示するまでの議論のサイズが、レポートの条件に合っている

© Makiko Ueoka all rights reserved

問いのサイズを調整する

「なぜ女性の社会進出は進まないのか」

- サイズを調整する = 扱う範囲を限定すること
 - 対象を限定する
 - 方法を限定する

何をするのが明確になるまで具体的に書いてみよう！

- 「このレポートでは、なぜ女性の社会進出が進まないのかについて、
 - 対象 → 育児休業制度とその問題点を考察する
 - A社の事例を検討する
 - 方法 → ドイツの制度と比較して検討する

© Makiko Ueoka all rights reserved

問いを絞り込むために

- 問いを絞り込むためには、領域に関する(基礎)知識が必要



したがって、
テーマに関する下調べ(学習)が必要になる

© Makiko Ueoka all rights reserved

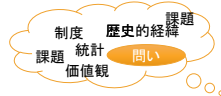
1回目の情報収集

問いを設定するために、

■ 1回目の情報収集

問いを設定する(何をするかを決める)ためには、あらかじめテーマに関する知識を持っていることが必要 → 下調べ

- * そのテーマについて語れるだけの知識を仕入れる
- 問い(レポートですること)を説明するために使える



© Makiko Ueoka all rights reserved

2回目の情報収集

問いを設定したら、

■ 2回目の情報収集

→ 本格的な情報収集

- 問いに対する答えを導き出すための情報を集める
= 書くための材料探し
- このときには、「～の情報が欲しい」のように、求める情報は定まっているはず

© Makiko Ueoka all rights reserved

レポートで情報は...引用する

- レポートや論文は**学術的なコミュニケーション**をするためのもの

■ 学術的であるとは、

- 論理的である

論理: 考えや議論の組み立て・道筋を示すこと

...次回扱います

- 根拠に基づいている

根拠: **もともとなる理由を示すこと**

自分の主観でなく、他者が作成した**情報**を引用する

© Makiko Ueoka all rights reserved

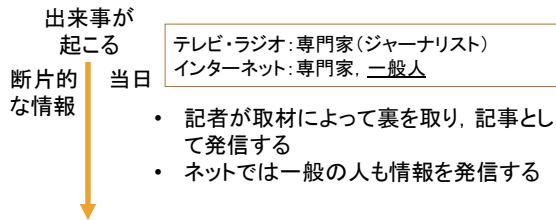
レポートや論文で、根拠として引用するのに妥当な情報とは？

情報源の特徴と評価の仕方を学ぼう！

© Makiko Ueoka all rights reserved

情報の生産と流通 テレビ・ラジオ・インターネット

- 特定の事柄に関する情報は、いつ、誰が生産し、どのような媒体を通じて流通するのか？



情報源の特徴 インターネット上の情報

- ・情報の速報性には非常に優れている
- ・音声, 映像, テキストなど, さまざまな形態の情報がある
- ・誰でも情報を発信することができ, **専門家**が発信する情報も, **一般人**が発信する情報もある
- ・**発信者の身元が不明(または匿名)の情報**も多い
- ・**情報の質を担保する仕組みが存在しない**ため, 事実も, 誤った情報も存在する
- ・図書, 雑誌, 新聞, テレビ番組の情報も存在する
- ・インターネットでは入手できない情報も多い

情報の生産と流通 新聞

1日後

新聞 : 記者(ジャーナリスト)

- ・記者の取材に基づいて編集された情報が発信される。
- ・出来事が起こった直後に比べると情報の量も増え、まとまった情報が掲載される。

情報源の特徴 新聞

- ・速報性に優れ、時事的な問題に強い
- ・全国紙・地方紙と専門紙、全国紙の地方版がある
- ・記者(ジャーナリスト)が執筆
- ・取材(裏をとる作業)と、デスクと呼ばれる編集責任者による確認により質が担保される
- ・ただし、**立場は中立ではない**
- ・インターネットで提供されている電子版は、基本的に記事の一部を提供する
- ・過去のものは、縮刷版(紙, マイクロ)、電子版はデータベースを通じて見ることができる

情報の生産と流通 雑誌

1週間後～1か月

雑誌(週刊誌・月刊誌など) :
記者・ライター(ジャーナリスト)

- ・記者やライターの取材や調査に基づいて編集された情報が掲載される
- ・情報は量が増え、さらにまとまったものになっていく

情報源の特徴 (一般)雑誌

- ・記者(ジャーナリスト), ライターが執筆
- ・記事によっては、根拠となる情報源が示されていない場合もある
- ・**立場は中立ではない**
- ・インターネット上で、電子版が提供されている場合もある
- ・バックナンバーは図書館で保管されている
- ・電子版のバックナンバーはデータベースを通じて見ることができる

情報の生産と流通 学術雑誌

数か月後～1年後

学術雑誌： 研究者
例) 学会誌、大学紀要など

- 研究者が、研究成果を、学会や学術雑誌で発表する

情報源の特徴 学術雑誌

- 研究者の研究成果である論文を掲載する雑誌。学会が刊行する「学会誌」、大学から出される「紀要」のほかに、商業出版社から刊行されるものもある
- 商業出版社が刊行しているものは書店で売られているが、**学会誌は学会の会員にのみに配布される**
- 大学図書館は、さまざまな学会の購読会員となり、学会誌を収集している

情報源の特徴 学術雑誌(続き)

- 学術雑誌に投稿された論文は、**掲載される前に、査読(ピアレビュー)と呼ばれる審査を受ける。この手続きにより、学術情報としての質が担保されている**
- 現在では、過去のものも含め、多くの学術雑誌が電子ジャーナルとして出版されている
- 大学の発行する紀要の多くは電子化され、各大学の機関リポジトリを通じて提供されている

情報源の特徴 学術情報

- 学術的に利用されることを目的として生産された情報**
- 基本的に**学術コミュニティのメンバーに向けて生産される**
- 学術情報は、必ず**過去の研究成果を踏まえて生産される**
- 証拠(エビデンス)と根拠(データ)に基づいて生産される**
- 利用した情報源からの**引用箇所、および、出典を明示しなければならない**
- 学術情報は、これらの**ルールにしたがって生産される**

情報の生産と流通 図書

1年後～数年後

(一般)図書： 様々な著者
学術書： 研究者、専門家

- 情報がまとまった量になると、図書として出版される
- 研究成果も量がまとまると図書(学術書)として出版される

まとまった情報へ

情報源の特徴 図書

- 情報量は最も多く、情報は体系的にまとめられている
- さまざまな著者によって執筆され、ジャンルもさまざまなものがある
- 編集者のチェックを経て出版されるという点で、質を担保するための仕組みが存在する
- ただし、**自費出版されるものもあるなど、情報の質そのものはさまざまである**

情報源の特徴 一般書 vs. 学術書

- 一般書
一般の人に向けて書かれた図書。多くの図書が一般書。一般書の生産には、学術情報の生産の際のようなルールはない。
- 学術書
 - 研究者が研究成果をまとめたものなど、学術利用のために書かれた図書。情報の引用と出典の明示など、学術情報生産のルールにしたがって書かれている。

情報の生産と流通 レファレンスツール

1年後～数年後

レファレンスツール(調べるためのツール): 専門家(研究者等)

- 出来事についての確定した内容が、簡潔にまとめられて、事典類、便覧の項目として記載される
例) 辞典・事典, 便覧

情報源の特徴 辞典・事典、便覧

- 項目は、その分野の専門家が執筆することが多い
- 各項目には、それまでに研究によって明らかになり、確定した情報が簡潔に記載されている
- 言葉について調べるには辞典、事柄について調べる際には事典を利用する
- 事典には、すべての領域を対象とする百科事典と、経済学事典、社会学事典など、特定の領域を対象とする専門事典がある

情報源の特徴 辞典・事典、便覧(続き)

- 事典の編集には膨大な時間がかかるため、出版されるまでに時間がかかり、また、一度出版されると頻繁には改訂されない。そのため、新しい事柄が掲載されるまでに時間がかかる
- 便覧は、特定の領域についての知っておくべき内容を簡便にまとめたもの。必要な事柄を見やすく、調べやすいように再編集されている。

情報を評価する際のポイント

1. 適時性
 - その情報はいつの時点の情報か?
 - 更新されているか?
2. 信頼性
 - その主張の根拠・証拠は示されているか?
 - 情報が引用されているか?
 - 出典は明示されているか?
3. 権威性
 - その情報の発信者は誰か?
 - 発信者は、そのトピックについて発信するだけの十分な資質が認められるか?
4. 目的と範囲
 - その情報はどのような目的で発信されているか?
 - 情報は偏っていないか?

次回予告**31**

執筆編:

アウトラインと情報の引用

11月16日(木)16:30～